

**日本人はなぜ  
コメを食べなくなったのか？  
～コメ消費減少の要因分析～**

経済学部 林宜嗣ゼミナール 30期1班

白井和 中谷友美 長村祥太  
西田拓馬 細越雄人 淀南歩

# もくじ

1. はじめに

2. 現状分析

3. 仮説の設定と検証

4. まとめ

5. 参考資料

# 1. はじめに

最初に、本研究の問題意識から説明に入っていく。

この論文をご覧の皆様へ、ご自身の最近の食生活について振り返って頂きたいと思う。皆様は朝食を毎朝食べているか？昼食や夕食は、偏りのないバランスの取れた食事を摂ることが出来ているか？また皆様はそれぞれの食事は何を口にしているのか？肉や魚、野菜などから、果物類から菓子類まで、その種類は豊富にある。

我々が注目したのは、食生活の中でも「何を口にするか」そして「主食に何を選択しているのか」ということである。近年日本では、主食に関して日本人の「コメ離れ」が深刻な社会問題と化している。日本の主食と言えばコメを思い浮かべると思うが、主食用コメの消費量は、近年約 8 万トンずつ減少していると言われている。これを年間一人あたりに換算すると、70 合ずつ減少しているという計算になる。これらを踏まえて、我々はこのような疑問を持った。今後も更にコメの消費量の減少が続いてしまうのではないかと、そもそも何が原因でコメの消費量が減少しているのか？このような疑問が、我々の研究の出発点となった。

平成 25 年 12 月、和食はユネスコの無形文化遺産に認定された。「自然を尊ぶ」という日本人の気質に基づいた「食」に関する「習わし」を、「和食；日本人の伝統的な食文化」と題し、世界から高い評価を得るものとなっている（農林水産省 HP より引用）。その和食を象徴するものの 1 つは、紛れもなく「コメ」であろう。そのコメが今後消費量の減少、又は消費されなくなってしまうことは、日本の良き食文化の崩壊にもつながりかねないと我々は考える。

本研究の目的は、コメ消費減少の要因を明らかにすることにある。日本人のコメ消費の減少の実態を現状分析で明らかにし、我々が注目すべきポイントを絞る。それを元に、仮説の設定・検証からコメ消費量減少の要因分析を行う。その要因を解明した後に、今後日本全体でコメの消費量を増加させていくためのヒントを提示することで、研究を締めくくる。

# 2. 現状分析

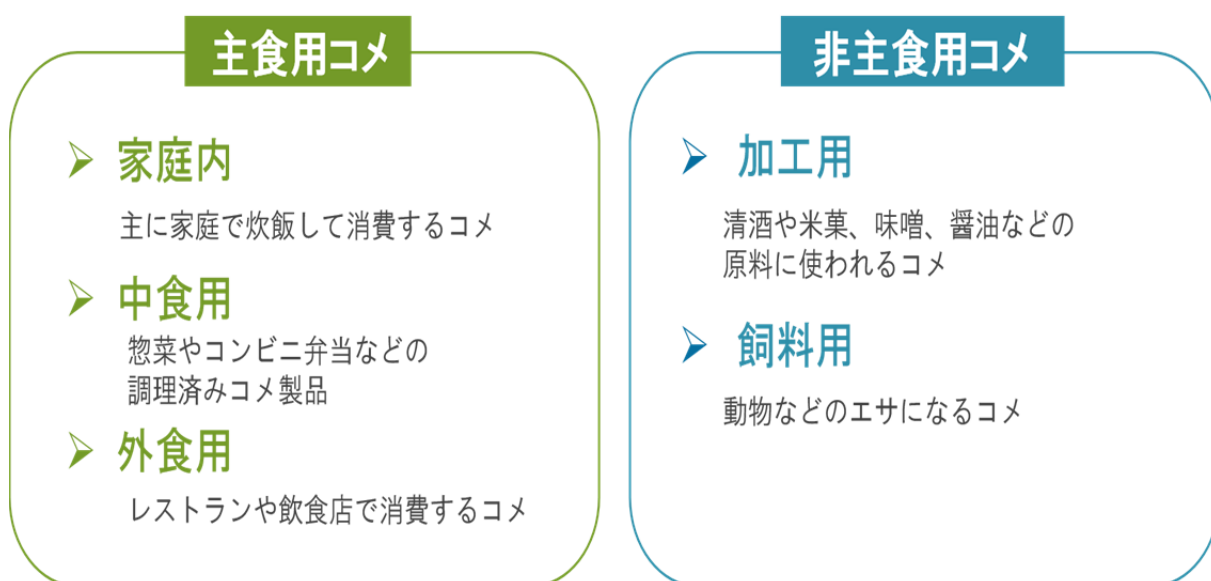
現状分析では、分析を進めつつ以下の 3 つのポイントを明らかにし、我々が注目すべき視点を明確にすることを目的とする。

- ① 我々が注目する「コメ」の種類は何か？
- ② 「コメ」の中でも最も影響を与えている項目は何か？
- ③ 日本人は主食を食べなくなったのか？  
それともパンや麺類等の他の主食へシフトしているのか？

まず、コメは大きく分けて主食用コメと非主食用コメの2種類がある。主食用コメとは、お茶碗に盛って食べるコメやおにぎりといった、普段私たちが口にするようなコメのことで、主食用コメの中でも、「家庭内」「中食用」「外食用」の3つに分けられる。対して非主食用コメとは、その名の通り主食として食べないコメのことで、お酒や米菓、味噌、醤油などの原料に使われる「加工用」や、動物などのエサになる「飼料用」が含まれる(図1)。

本研究では、食べるコメの消費減少を問題意識としているため、主食用コメに注目したい。

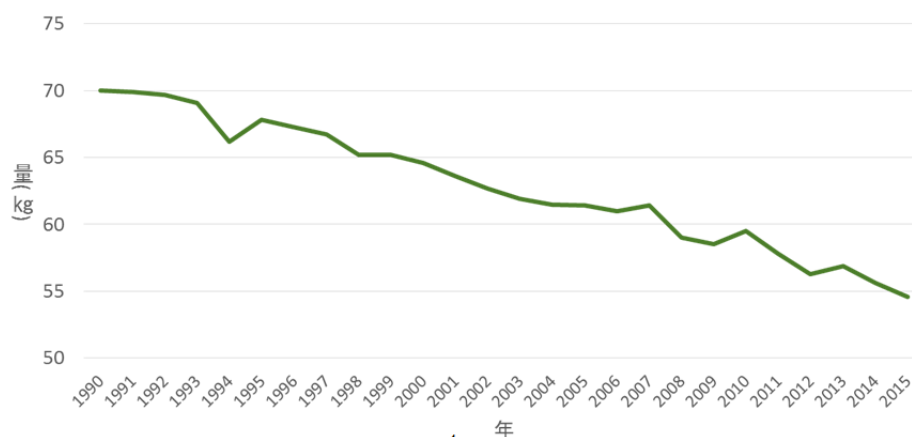
【図1】コメの種類別定義



また、主食用コメの「家庭内」「中食用」「外食用」の3つの中でどのコメに注目するかどうか、まず一人あたり主食用コメの消費量のグラフを見ていただきたい。

図2のグラフを見ると、年々減少傾向にあることから、日本人が如何に主食としてコメを食べなくなったかが分かる。

【図2】一人あたり主食用コメの消費量

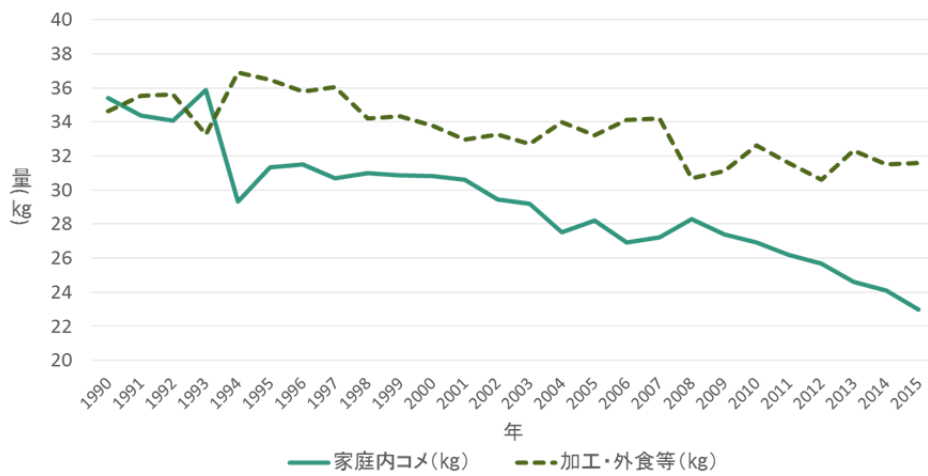


(総務省統計局「消費者物価指数年報」より作成)

次に主食用コメを構成する家庭内コメ・中食外食等の一人あたり消費量(図3)を見ると、中食外食量はほぼ一定に推移しているのに対し、家庭内コメの消費量は減少傾向であることが分かる。このことから、家庭内で消費されるコメの減少が、主食用コメの消費減少への関係が強いと我々は考えた。

よって、本研究では主食用コメの中でも家庭内コメ(注1)に注目して研究を進めていくことにした。

【図3】 家庭用コメ、加工・外食等の一人あたり消費量

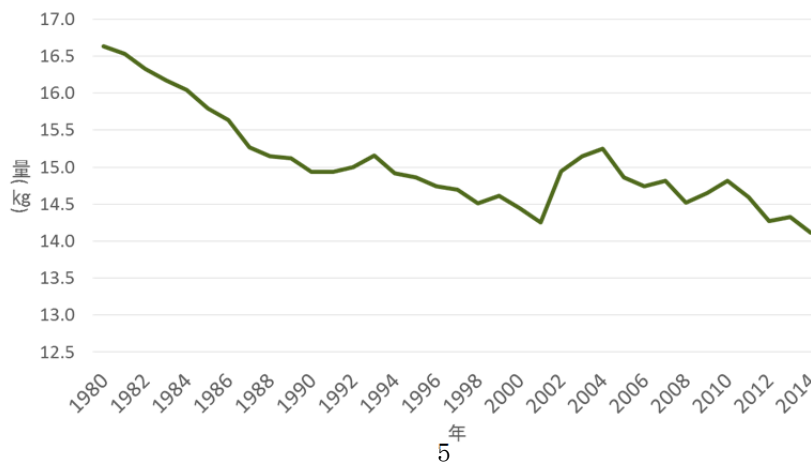


(総務省統計局「消費者物価指数年報」より作成)

次に、主食を食べなくなったのか、パン・麺類へシフトしたのかについて分析を行う。

まず、一人あたり主食消費量の推移のグラフ(図4)を見ると、年々減少傾向にあることから、日本人は昔よりも主食を食べなくなったことが分かる。

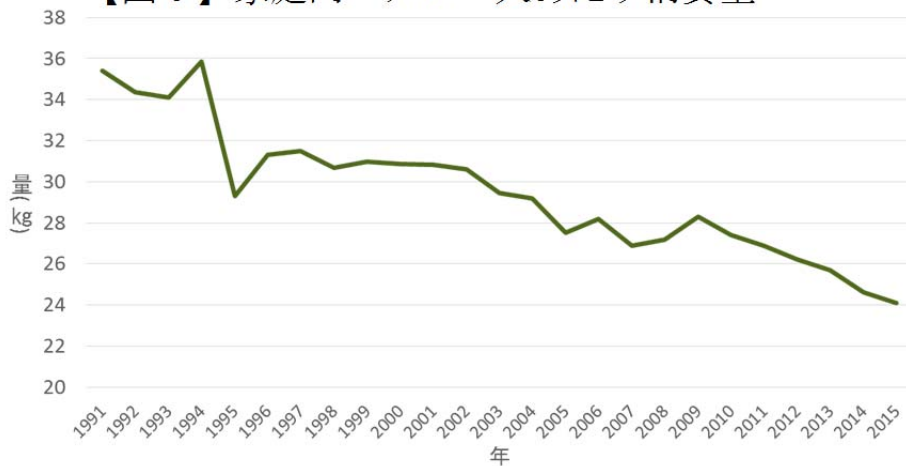
【図4】 一人あたり主食消費量の推移



(総務省統計局「消費者物価指数年報」より作成)

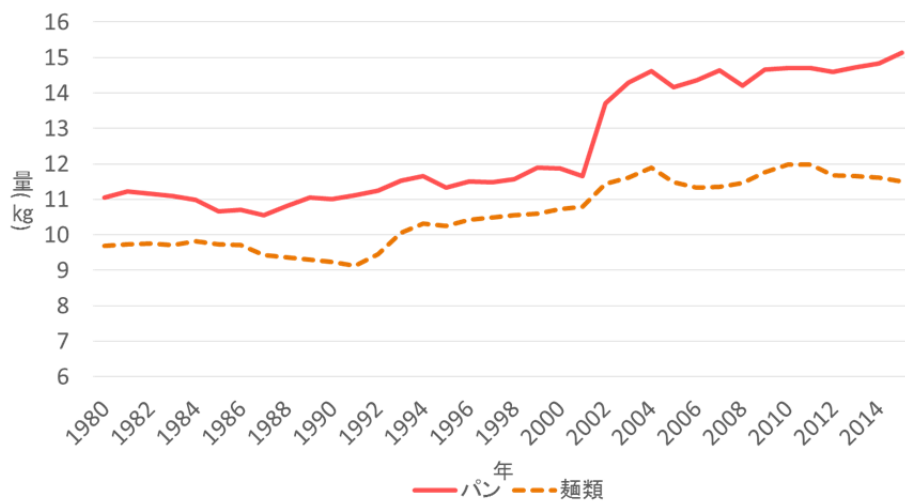
さらに主食を構成するコメ・パン・麺類の推移を1つずつ見ていくと(図5、6)、家庭内コメの一人あたり消費量は年々減少傾向であることがわかる。しかし、パン・麺類の一人あたり消費量を見ると、年々増加傾向にあることから、主食の中でもパン・麺類にシフトしたことが考えられる。

【図5】家庭内コメの一人あたり消費量



(農林水産省「平成26年食料需給表」より作成)

【図6】パン・麺類の一人あたり消費量



(農林水産省「平成26年食料需給表」より作成)

「パン・麺類へのシフト」の現状分析の結果としては、家庭内コメ一人あたりの減少に伴い、パン・麺類の一人あたり消費量は増加していることから、主食の中でもコメからパ

ン・麺類にシフトしていることが分かる。このことから、日本人は昔よりも主食を食べなくなり、コメからパン・麺類にシフトしているということが分かった。

現状分析のまとめとしては、一人あたり主食消費量は年々減少傾向にあり、家庭内コメの一人あたり消費量は減少、パン・麺類の一人あたり消費量は増加していることから、主食消費量減少の大きな原因は家庭内コメ消費減少である。よって、主食消費量は家庭内コメの消費減少を反映しているにすぎない。また、家庭内コメの一人あたり消費量の減少に伴い、パン・麺類の一人あたり消費量が増加していることから、パン・麺類へシフトしていると言えるということだ。

すなわち、日本人は主食を食べなくなっていることに加え、主食内でもコメからパン・麺類消費へシフトしているということが明らかになった。

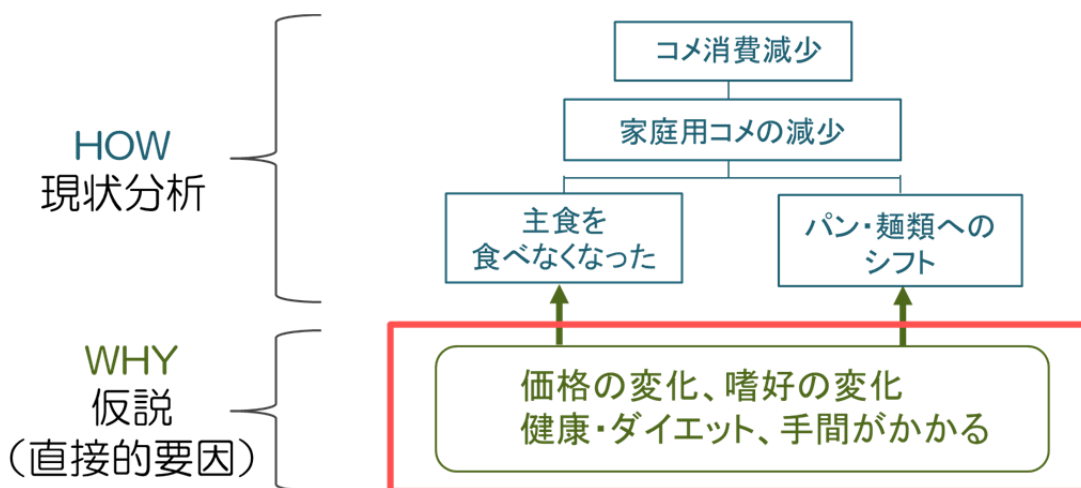
### 3. 仮説の設定と検証

次は仮説の設定と検証についてである。現状分析をもとに

- ① 価格の変化
- ② 嗜好の変化
- ③ 健康・ダイエット
- ④ 手間がかかる

という 4 つの仮説を設定した。現状分析のフローチャートに仮説を加えると、このようになる(図7)。

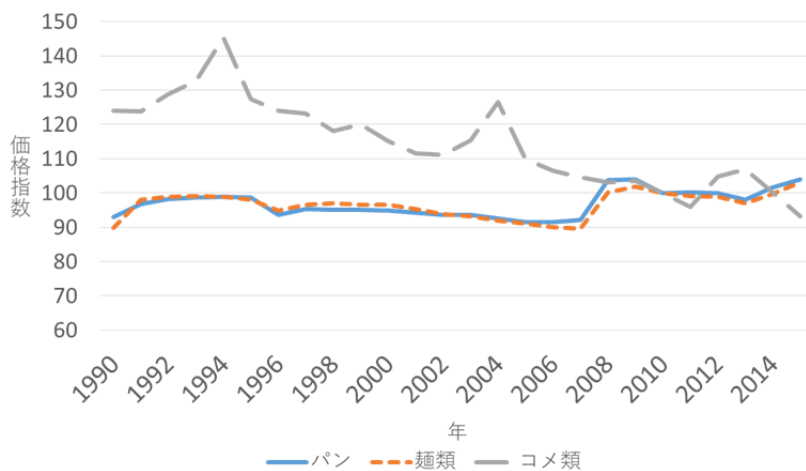
【図7】現状分析のフローチャート



まず仮説①の「価格の変化」の検証である。私たちは、コメの価格が上がったため、コメの消費は減少したのだろうか？と考えた。

図8は、コメ・パン・麺類の価格指数のグラフである。縦軸は価格指数、横軸は年度を取っている。上の灰色の線を見ると、コメの価格指数は下がっているが、下の青とオレンジの線を見ると、パン・麺類の価格指数は上がっているということが分かる。

【図8】 コメ・パン・麺類の価格指数

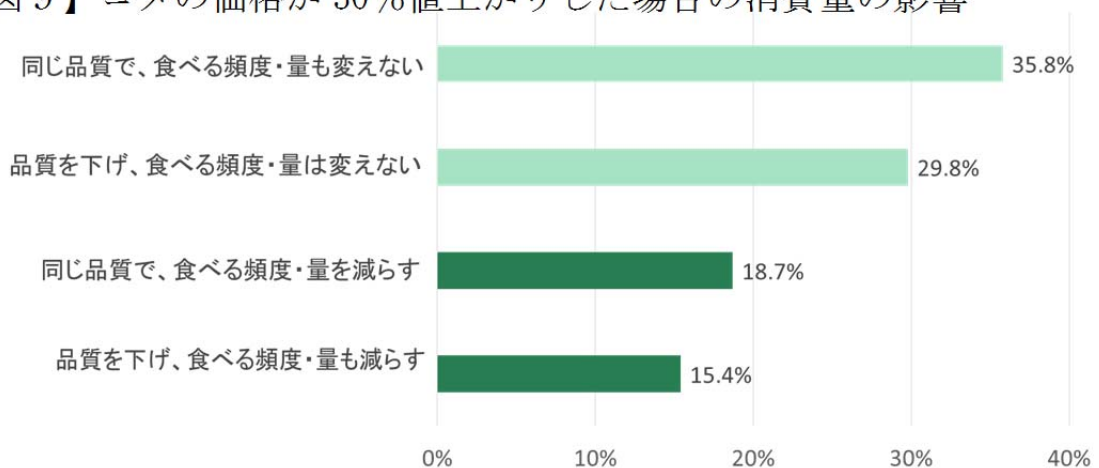


(総務省統計局「消費者物価指数年報」より作成)

経済学理論では、価格が下がると、消費量は上がると言われている。

しかし、実際にはコメの価格は下がっていたにもかかわらず、コメの消費量も下がっていた。これは経済学理論に反する結果となっている。そこで、この私たちの研究結果を裏付けるものはないかと探してみたところ、1つの先行研究を発見した。

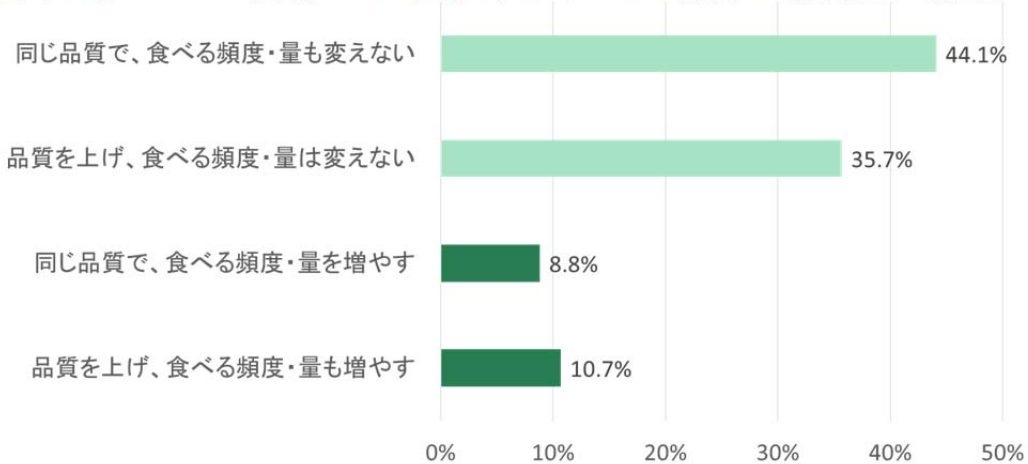
【図9】 コメの価格が30%値上がりした場合の消費量の影響





(「平成 26 年度主食用米消費動向の中期的变化及びその要因分析調査」より作成)

【図 10】 コメの価格が 30%値下がりした場合の消費量の影響



(「平成 26 年度主食用米消費動向の中期的变化及びその要因分析調査」より作成)

その先行研究は、「平成 26 年度 主食用米消費動向の中期的变化及びその要因分析調査」というものだ(有効回答数 1600 名/男性 49.3%、女性 50.2%)。この研究の中で、「コメの価格が上がったり下がったりした場合、あなたはコメの消費量を変えますか?」という問いがあった。その結果のグラフが図 10、図 11 だ。

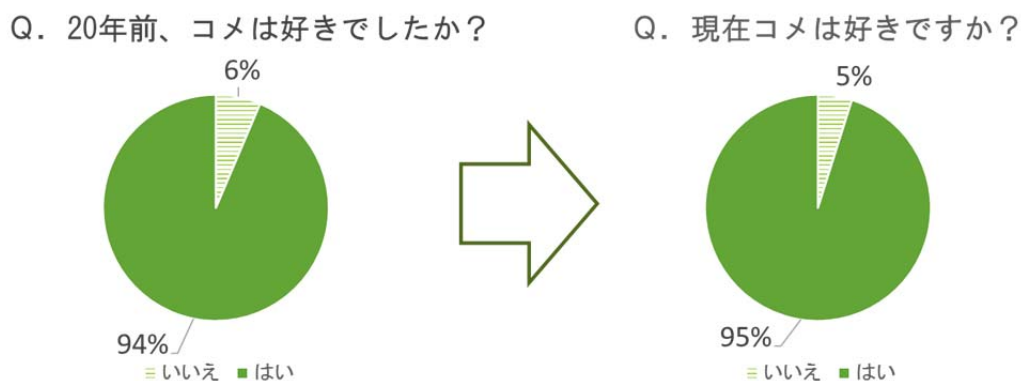
価格が 30%値上がりした場合、コメの消費量を減らすと回答した人(図 9)は 34.1%いた。その問いとは逆に、価格が 30%値下がりした場合、消費量を増やすと回答した人(図 10)は 19.5%しかいなかった。価格が上がった時に、消費を減らすと回答した人は 34.1%もいるのに対して、価格が下がった時に消費を増やすと回答した人は 19.5%しかおらず、価格が上がった時に比べて、価格が下がった時の消費者の反応は薄いというデータがあった。これらの結果から、私たちはコメの価格が上がっているため、消費が減少していると思っていたが、コメの価格は年々下がっているということが分かった。コメの消費においては、経済学理論が成り立たなかった。さらにアンケート結果から、コメの値上がりは消費減少を招きやすいが、コメの値下がりからは消費増加を期待できないことが分かった。そこで私たちは、コメの価格は下がっているため、コメの消費減少に関係しないとし、仮説①の「価格の変化」は関係ないと判断した。

続いて 3 つの仮説について説明していく。仮説②「嗜好の変化」では、米よりもパン・麺類を好む人が増えたため、コメ消費は減少したのかを検証する。仮説③「健康・ダイエット志向」では、健康ダイエット志向の強い日本人が米よりも他の主食を選択したのかを検証する。仮説④「手間がかかるから」では、米を炊くなどといった手間を嫌っているのかを検証する。仮説②③④は、人の気持ちや動向を指標とするため数値化が難しく、先行

研究などのデータがないためアンケート調査を行った。方法としては、若い世代には SNS で拡散し、高齢者世代には紙ベースで回答してもらった。内容としては、回答した方の 20 年前と現在を比較し検証を行った。対象者は年齢を限定せず、幅広く取り、年齢別、世代別、男女別で随所みることとした(アンケート内容は巻末資料 1 に掲載)。

まず仮説②「嗜好の変化」で、20 年前と現在でコメに対する嗜好が変わったかどうかを検証する。20 年前、コメは好きでしたか?という質問に対して、はい:94%、いいえ:6%という結果になった。同様に現在コメは好きですか?という質問に対して、はい:95%、いいえ、5%という結果になった(図 11)。この結果からわかるように、20 年前と現在を比較したとき嗜好の変化は見られなかった。

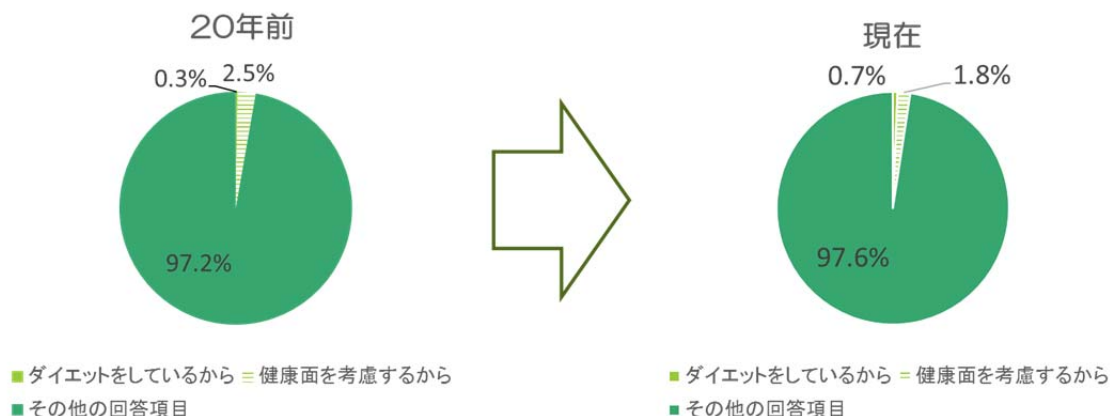
【図 11】「コメは好きですか?」という問いの回答比較



また同じアンケートの中に、「あなたは何故米以外の主食を選択しますか?」という質問に対して、米よりも好きだから、という回答項目を選んだ割合はごくわずかだった。この2つから、人々のコメに対する嗜好は変わらないという結果になった。

次に仮説の③、健康ダイエット志向の検証をする。

【図 12】健康・ダイエット志向の影響比較



この仮説においてはアンケートの質問の回答項目にある、「ダイエットをしているから。」  
「健康面を考慮するから。」の2つの項目に注目していきたいと思う。

この二つの項目は「米よりパン・麺類を選ぶ理由は何ですか?」という質問に対して 20  
年前も現在もごくわずかであったことが分かった。

結果として、コメを選択する際、健康ダイエットを考える人は限られており、アンケー  
ト結果から 20 年前と現在で変化がないことが分かった。よって仮説③は関係がないという  
結果になった。

次に、仮説④「手間がかかるから」を検証する。こちらの検証は、2 種類の質問を、アン  
ケートを通して尋ねてその結果を分析していく。1 つ目、「家庭内の主食としてコメ以外の  
パン・麺類を選ぶ理由は何ですか」という質問と 2 つ目「家庭内の朝昼夕食で主食を選ぶ  
際のこだわりは何ですか」という質問を投げかけ、今から 20 年前の過去と現在を比較し、  
割合の変化を見ていく。

【図 13】 主食選択における手間の影響(朝食)

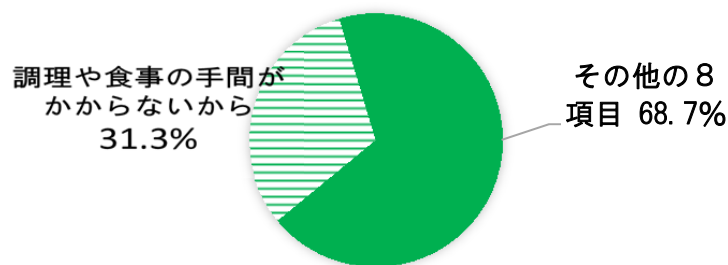


図 13 は、例として現在の朝食について尋ねた円グラフである。「家庭内の主食として米  
以外のパンや麺類を食べることはありますか?」という問いに対して「はい」と答えた方  
に、その理由を聞いた結果を示している。ここでは、「手間がかかる」を分析する上で 31.3%  
を占めている、「調理や食事の手間がかからないから」という項目に注目し比較する。これ  
を昼食や夕食も同様に行う。

【図 14】 「調理や食事の手間がかからない」選択割合 (%)

	過去 (今から20年前)	現在
朝食	24.0	31.3
昼食	20.9	22.8
夕食	7.4	10.5

図 14 が比較した結果であり、朝昼夕食、いずれにおいても過去と比べて「手間がかからないから」を選択する人の割合が増加していることが分かる。

【図 15】主食選択理由における「手間」を示す割合(朝食)



次に、図 15 は 2 つ目の質問の朝食について尋ねた円グラフである。ここで注目するのは「家庭内で主食を選ぶ際、朝食・昼食・夕食であなたのこだわりはありますか?」という問いに対しての回答で 51.3%を占めている「素早く食べられる」「簡単に調理・片付けが出来る」という項目である。これも同様に、昼食・夕食も合わせて分析する。

【図 16】「素早く食べられる」「簡単に調理・片付けが出来る」選択割合(%)

	過去 (今から20年前)	現在
朝食	45.1	51.3
昼食	24.8	24.8
夕食	5.5	6.8

こちらを比較すると、過去と比べて食事の簡素化にこだわる人の割合が増加していることが分かった。

2つの分析から、主食の選択のこだわりを見ると、朝昼夕、関係なく素早く食べられる、簡単に調理・片付けが出来るという項目が増加していることが分かった。また、米ではなくパン・麺類を選択する際も手間が嫌う傾向が過去と比べて強くなっていることが分かった。以上のことから、「手間がかかる」は、米消費減少に関係しているといえる。

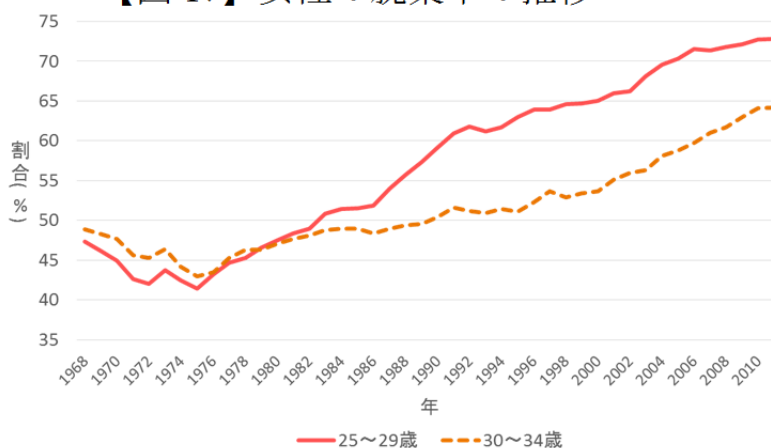
これまで家庭内コメ消費減少の仮説を4つ立ててそれぞれを検証してきた。その中で家庭内コメ消費減少がもっとも関係が深いものと言うのが仮説④の「手間がかかるから」であった。ここからはその要因を更に深掘りしていきたいと思う。

そもそも人々はなぜ手間を嫌うのか、なぜ手間を考慮するのかということ考えた時にまず考えるものの1つとして「女性の社会進出」が挙げられる。この女性の社会進出が進むと、社会全体または個人の目線で様々な影響が考えられ、その中で我々は社会全体のうちの晩婚化・未婚化・少子化という3つの観点を重点的に考えた。次に晩婚化・未婚化について、グラフを用いて現状説明に入りたいと思う。

まず1つ目のグラフ(図17)だが、女性の就業率の推移を示したグラフとなっており、縦軸には割合、そして横軸には年度を取っている。見ていただいてもわかるが、年々上昇している。それも大幅に上昇していると言える。

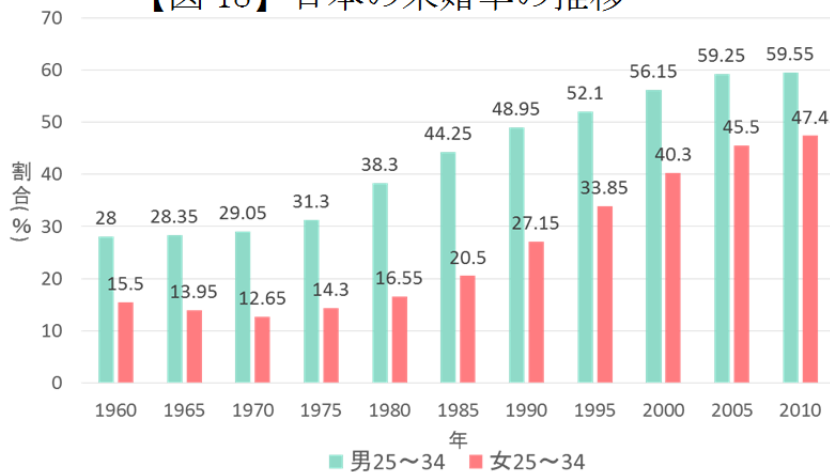
そして2つ目のグラフ(図18)だが、こちらのグラフは日本の未婚率を表したもので、縦軸に割合、横軸に年度をとっている。こちらのグラフは、男女ともに未婚率を表しており、こちらは男女ともに上昇していることが見て取れる。

【図17】女性の就業率の推移



(厚生労働省「女性の就業状況の変化」より作成)

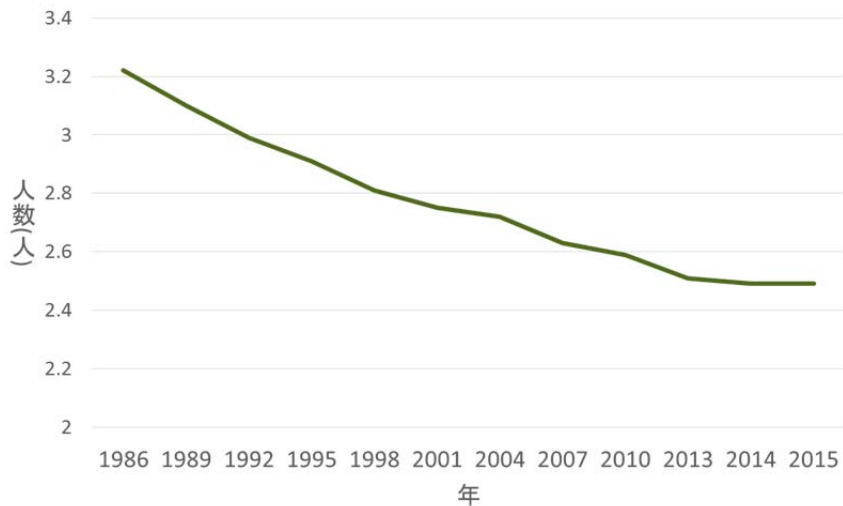
【図18】日本の未婚率の推移



(厚生労働省「女性の就業状況の変化」より作成)

そして最後に 3 つ目のグラフ(図 19)だが、こちらは日本の平均世帯人員の変化を表している。こちらは縦軸に人数、そして横軸に年度を取っており、こちらは先ほど 2 つのグラフとは違い、世帯人員が年々減少傾向にあることが伺える。そしてこれまで提示した 3 つのグラフから考えられることとして、社会進出が進むと女性の就業率が上昇し、そして男女の未婚率も上昇、逆に世帯人員は減少しているという現状が理解できる。また、女性の社会進出が進むに連れて時間の自由が効かなくなることもそもそも論として考えられる。

【図 19】 日本の平均世帯人数の変化



(厚生労働省「平成 27 年度国民生活基礎調査」より作成)

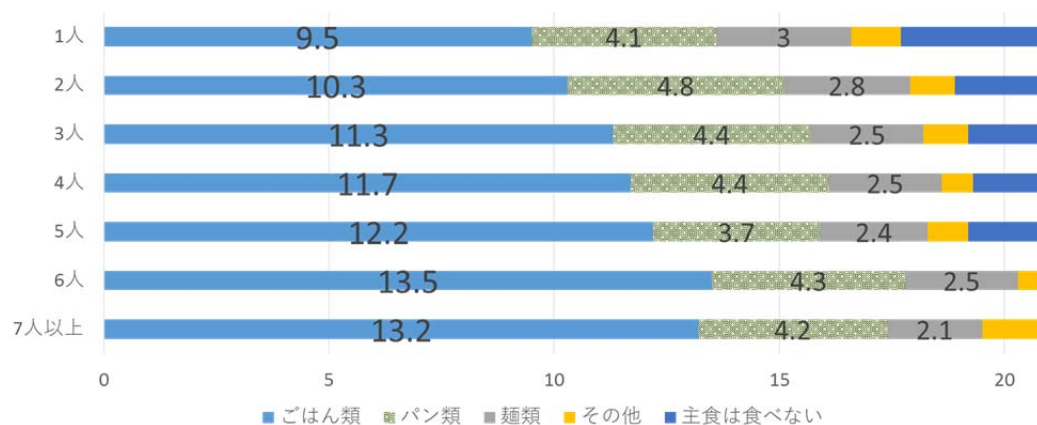
続いて、先ほど説明にもあった先行研究の「平成 26 年度主食用米消費動向の中期的変化及びその要因分析調査」の中で、「あなたは日頃、朝食・昼食・夕食それぞれでどの主食を週に何回程度食べますか？」という問いがある。こちらの回答結果には、同居人数が多いほどご飯類の選択回数が多いという結果が出ている。

つまりは将来的に一世帯あたりの同居人数が減少するとご飯類を選択する回数が減るという可能性があることだ。つまり世帯人員の減少がコメ消費減少の間接的要因として関係している可能性があると言えるだろう。

図 20 は、先ほどの先行研究をグラフに落とし込んだものになる。縦軸は世帯人数を表し、横軸には朝食・昼食・夕食それぞれ 1 日に 3 回食事をするとして、1 週間で 7 日、合計 21 回の食事機会があることを表している。記載数値は 21 回食べるうちに、何回どの食事を選択したかという平均選択回数を示している。ここで見て欲しいのは 1 番左の青い部分。これはご飯を選択した回数になっているが、世帯人数が減少するにつれてご飯を選択する回

数が減っていることが分かる。

【図 20】一週間における主食選択頻度：平均値、同居人数別



(「平成 26 年度主食用米消費動向の中期的变化及びその要因分析調査」より作成)

結果として女性の社会進出が進むにつれて女性の就業率が上昇し、そして男女の未婚率も上昇している。それに伴って世帯人員が減少しているということが理解できた。そしてその世帯人員の減少と米の家庭内消費が減少していることを裏付けるデータとして先行研究を提示し、それに加えて女性の社会進出が進むにつれて時間の制限がかかるということもわかった。以上のことから米消費減少の要因である「手間がかかるから」を直接的要因と考えると、女性の社会進出やそれに伴う世帯人員の減少は影響を及ぼしている 1 つの間接的要因であると考えられる。

## 4. まとめ

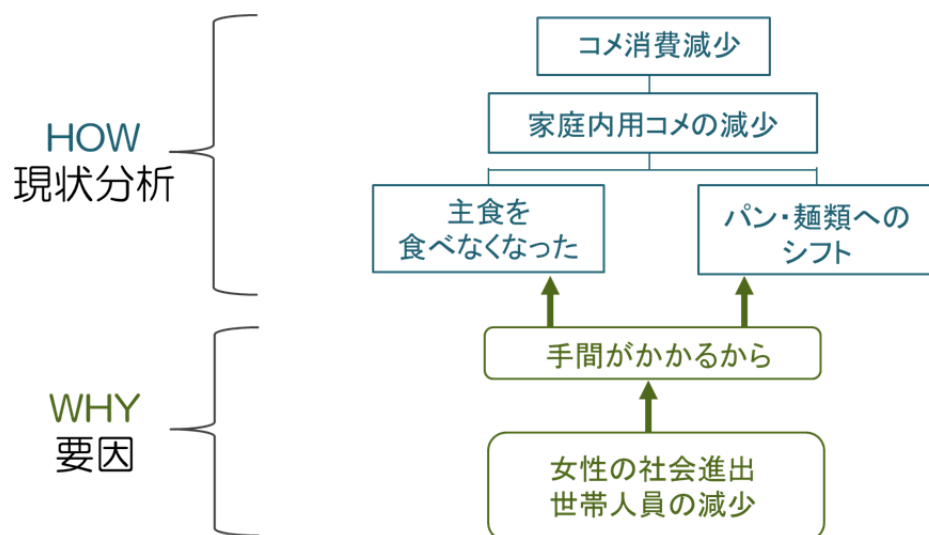
それでは、本研究のまとめに入っていきたいと思う。

我々の研究のアウトラインということで、フローチャートを再掲しておく。現状分析から以下のような要因を考えて分析を行ってきた。

今回は、日本のコメの消費減少の中でも特に要因と考えられる、「家庭内のコメの消費量」に注目して研究を進めてきた。そこでアンケートの結果を基に、世代間・性別・同居人数等で比較を行い、分析を行った。その中で要因と考えられたのは、「手間がかかる」という事実だった。これを我々は先述の通り「直接的(内的)要因」と考えている。では、次に何故手間が問題とされるのかを考えたときに我々で思い付いたのが、「女性の社会進出」や「世帯人員の減少」という、最近社会問題とされているもので、これらを我々は「間接的(外的)

要因」と考えている。

【図 21】 研究の流れ(フローチャート)



最後に、これからの政策提言に必要な視点を提示する。

日本ではコメの消費減少が社会問題であり、今後その消費量を増加させるために様々な政策を考えていく必要がある。その際に必要な視点として我々が提案するのは、「手間を省く」をコンセプトに置くことである。これによって、家庭内のコメの消費量を増加させていくことが期待できるのではないかと考えている。

しかし、現状分析から仮説の検証でも説明した通り、「手間」というのは個人的感情に依存する面が多々ある。そのため、例えば手間を省く製品等を開発しても普及せず、家庭内のコメの消費量は増加しないということも十分に考えられる。仮にそういった状況が起こったときに、「家庭内消費量」に絞らず全体量を上げるという視点、「家庭内」以外でも中食量や外食量を含めて全体の消費量を上げるという視点も必要になってくるが、その際にも先に提示した通り、「手間を省く」というコンセプトは忘れずに、それに加えて新たな視点も持ちながら政策を考えていかなければならないのでは、と我々は考えている。

## 5. 参考資料

- 「家計調査年報 家計収支編」(総務省 統計局)
- 「消費者物価指数年報」(総務省 統計局)
- 「商品取引所年報」(商品取引所連合会)



- 「食品産業統計年報」(食品産業センター)
- 「食生活データ総合統計年報」
- 統計局ホームページ/「家計調査」総務省統計局  
([www.stat.go.jp/data/kakei/](http://www.stat.go.jp/data/kakei/) 2016年6月27日確認)
- 「国民健康 栄養調査」(厚生労働省)  
([www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou\\_eiyou\\_chousa.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyou_chousa.html)/  
2016年6月27日確認)
- 「平成26年度主食用米消費動向の中期的変化及びその要因分析調査報告」
- 「女性の就業状況の変化」厚生労働省  
([www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h24/hakusho/h25/html/n1213000.html](http://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h24/hakusho/h25/html/n1213000.html)  
2016年11月7日確認)
- 「平成27年度 国民生活基礎調査」厚生労働省  
(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/20-21.html> 2016年11月7日確認)
- 「米の消費に関する動向」農林水産省  
([www.maff.go.jp/j/seisan/kikaku/pdf/1811d1.pdf](http://www.maff.go.jp/j/seisan/kikaku/pdf/1811d1.pdf) 2016年10月25日確認)
- 米穀安定供給確保支援機構：米ネット  
([www.komenet.jp/](http://www.komenet.jp/) 2016年10月28日確認)
- 米の消費関連情報-需給情報データベース-統計情報・調査・レポート  
([www.komenet.jp/jukyudb/822.html](http://www.komenet.jp/jukyudb/822.html) 2016年10月31日確認)

#### (注1)家庭内コメ

主食として家庭内で炊飯し、消費されるコメのこと。白米だけでなく雑穀米・玄米なども含む。「コメを買った量=コメの消費量」とするため、農家自家消費は含まない。

## 【資料1】 米の消費動向調査アンケート

関西学院大学 経済学部 林ゼミ 30期

私たちは、近年問題とされている米消費減少に関する研究を行っています。

ご自身の食生活についてお答えいただくと幸いです。

ご協力お願いいたします。

※にレ点でチェックをしてください。

【問1】年齢をお答えください。

～10代 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代   
90代 100代

【問2】性別をお答えください。

男性 女性

【問3】ご結婚されていますか。

はい いいえ

【問4】同居人数をお答えください。

1人 2人 3人 4人 5人 6人 7人 それ以上

【問5】お米は好きですか？

はい いいえ

【問6】パンや麺類は好きですか？

はい いいえ

【問7】家庭内の主食として米以外のパンや麺類を食べることはありますか？

はい いいえ

【問8】問7ではいと答えた方にお尋ねします。

なぜパンや麺類を選択しますか？

朝食・昼食・夕食それぞれでお答えください。

※下の（ ）に当てはまる番号を一つずつお書きください。

1. 気分
2. 米より好きだから
3. 以前からの習慣
4. 調理や食事の手間がかからないから
5. 健康面を考慮するから
6. ダイエットしているから
7. 家族・同居人が調理したものを食べるだけ
8. パンや麺類は食べない
9. その他

朝食（ ） 昼食（ ） 夕食（ ）

【問9】家庭内で主食を選ぶ際、朝食・昼食・夕食であなたのこだわりはありますか？  
朝食・昼食・夕食それぞれでお答えください。

※下の（ ）に当てはまる番号を一つずつお書きください。

1. 素早く食べられる
2. 簡単に調理、片付けができる
3. おいしい物、自分の好きなものを食べる
4. 栄養バランスが良い
5. 低カロリーである
- ⑥腹持ちが良い
- ⑦価格が安い
- ⑧家族・同居人が調理したものを食べるだけ
- ⑨その他
10. 特になし

朝食（ ） 昼食（ ） 夕食（ ）

ここから先は、20歳以上のすべての方に、20年前の頃についてお尋ねします。

(Ex. 現在40代の方はご自身が20代の頃についてお答えください。)

※□にレ点でチェックをしてください。

【問10】当時ご結婚されていませんか。

はい いいえ

【問11】当時の同居人数をお答えください。

1人 2人 3人 4人 5人 6人 7人 それ以上

【問12】お米は好きでしたか？

はい いいえ

【問13】パンや麺類は好きでしたか？

はい いいえ

【問14】家庭内の主食として米以外のパンや麺類を食べることはありましたか？

はい いいえ

【問15】問14ではいと答えた方にお尋ねします。

なぜパンや麺類を選択しましたか？

朝食・昼食・夕食それぞれでお答えください。

※下の（ ）に当てはまる番号を一つずつお書きください。

1. 気分
2. 米より好きだったから
3. 以前からの習慣
4. 調理や食事の手間がかからなかったから
5. 健康面を考慮していたから
6. ダイエットしていたから
7. 家族・同居人が調理したものを食べていただけ
8. パンや麺類は食べなかった
9. その他

朝食（ ） 昼食（ ） 夕食（ ）

【問16】家庭内で主食を選ぶ際、朝食・昼食・夕食であなたのこだわりはありましたか？

朝食・昼食・夕食それぞれでお答えください。

※下の（ ）に当てはまる番号を一つずつお書きください。

1. 素早く食べられる
2. 簡単に調理、片付けができる
3. おいしい物、自分の好きなものを食べる
4. 栄養バランスが良い
5. 低カロリーである
6. 腹持ちが良い
7. 価格が安い
8. 家族・同居人が調理したものを食べていただけ
9. その他
10. 食べなかった

朝食（ ） 昼食（ ） 夕食（ ）

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

## 【資料2】

## アンケート結果一覧

<b>【問1】</b>		<b>【問8】</b>	
～10代	4	気分	95
10代	50	米より好きだから	17
20代	197	以前からの習慣だから	65
30代	24	調理や食事の手間がかからないから	119
40代	59	健康面を考慮するから	7
50代	57	ダイエットをしているから	4
60代	13	家族・同居人が調理したものを食べるだけ	24
70代	16	朝食でパン・麺類は食べない	33
総計	420	その他	11
		総計	375
<b>【問2】</b>		<b>【問9】</b>	
男性	177	気分	180
女性	243	米より好きだから	19
総計	420	以前からの習慣だから	25
		調理や食事の手間がかからないから	84
		健康面を考慮するから	4
<b>【問3】</b>		ダイエットをしているから	2
未婚	253	家族・同居人が調理したものを食べるだけ	14
既婚	167	昼食でパンや麺類は食べない	23
総計	420	その他	12
		総計	363
<b>【問4】</b>		<b>【問10】</b>	
一人	94	気分	162
二人	73	米より好きだから	12
三人	99	以前からの習慣だから	12
四人	107	調理や食事の手間がかからないから	38
五人	35	健康面を考慮するから	8
六人	5	ダイエットをしているから	1
七人以上	7	家族・同居人が調理したものを食べるだけ	36
総計	420	夕食でパン・麺類は食べない	78
		その他	14
<b>【問5】</b>		総計	361
はい	400	<b>【問11】</b>	
いいえ	20	素早く食べられる	142
総計	420	簡単に調理・片付けができる	75
<b>【問6】</b>		おいしいもの、自分の好きなものを食べる	64
はい	410	栄養バランスが良い	29
いいえ	10	低カロリーである	4
総計	420	腹持ちが良い	36
		価格が安い	4
<b>【問7】</b>		家族・同居人が調理したものを食べる	30
はい	371	その他	10
いいえ	49	特にない	26
総計	420	総計	420

<b>【問12】</b>		<b>【問20】</b>	
素早く食べられる	56	気分	85
簡単に調理・片付けができる	50	米より好きだったから	14
おいしいもの、自分の好きなものを食べる	165	以前からの習慣だったから	8
栄養バランスが良い	33	調理や食事の手間がかからないから	57
低カロリーである	9	健康面を考慮していたから	7
腹持ちが良い	23	ダイエットをしていたから	2
価格が安い	17	家族・同居人は調理したものを食べていた	72
家族・同居人が調理したものを食べる	31	昼食でパン・麺類は食べなかった	15
その他	7	その他	16
特にない	29	総計	276
総計	420		
<b>【問13】</b>		<b>【問21】</b>	
素早く食べられる	8	気分	67
簡単に調理・片付けができる	21	米より好きだったから	7
おいしいもの、自分の好きなものを食べる	147	以前からの習慣だったから	8
栄養バランスが良い	101	調理や食事の手間がかからないから	20
低カロリーである	15	健康面を考慮していたから	11
腹持ちが良い	9	家族・同居人が調理したものを食べていた	90
価格が安い	8	夕食でパン・麺類は食べなかった	47
家族・同居人が調理したものを食べる	82	その他	14
その他	5	総計	264
特にない	24		
総計	420		
<b>【問14】</b>		<b>【問22】</b>	
未婚	215	素早く食べられる	103
既婚	114	簡単に調理・片付けができる	36
総計	114	栄養バランスが良い	26
<b>【問15】</b>		低カロリーである	5
一人	42	腹持ちが良い	8
二人	37	家族・同居人が調理したものを食べる	81
三人	78	特にない	36
四人	104	その他	9
五人	39	総計	304
六人	18		
七人以上	9		
総計	327		
<b>【問16】</b>		<b>【問23】</b>	
はい	300	素早く食べられる	44
いいえ	21	簡単に調理・片付けができる	33
総計	321	おいしいもの、自分の好きなものを食べる	70
<b>【問17】</b>		栄養バランスが良い	15
はい	306	低カロリーである	3
いいえ	21	腹持ちが良い	7
総計	327	家族・同居人が調理したものを食べる	89
<b>【問18】</b>		その他	9
はい	280	特にない	41
いいえ	47	総計	311
総計	327		
<b>【問19】</b>		<b>【問24】</b>	
気分	56	素早く食べられる	13
米より好きだったから	14	簡単に調理・片付けができる	4
以前からの習慣だったから	42	おいしいもの、自分の好きなものを食べる	77
調理や食事の手間がかからないから	69	栄養バランスが良い	61
健康面を考慮していたから	2	低カロリーである	3
家族・同居人が調理したものを食べていた	74	腹持ちが良い	3
朝食でパン・麺類は食べなかった	16	家族・同居人が調理したものを食べる	117
その他	10	その他	8
総計	283	特にない	31
		総計	317